

平成 25 年第 1 回定例会（3 月）一般質問

(1) 「共生のまちづくり」の具体的な施策について

○ 議員 宮下裕美子 通告書に従い質問いたします。最初の質問は「共生のまちづくり」の具体的な施策についてです。町長は昨年10月、三期目就任の折り「共生のまちづくり」を表明しました。そして昨年12月の一般質問答弁で「共生のまちづくり」の概念を示したと思います。議事録から拾って見ますと概念として示されたものは、「施設、行政、地域全てがお互いの存在を認め合い、感謝した中で共に生き生きと生きていく姿が『共生のまちづくり』である。あるいは地域コミュニティを充実していくことが『共生のまちづくり』につながる。また、生きがいを持って生き生きと触れ合っていくシステムを作り上げていく。」と述べていたと思います。私は最初に所信表明の折りに初めて「共生のまちづくり」と耳慣れない言葉を聞いて、当初は戸惑い理解できませんでした。しかし12月の一般質問の答弁、議事録を何度も読み返すうちに「共生のまちづくり」は、月形町の目指すべき姿ではないかと思えてきました。勿論これまでの月形町の歴史や様々な取り組みの中に「共生」という概念は既に醸成されていると言えますが、あえてここで「共生のまちづくり」を掲げることで、組織を超えた新しい横のつながりを持ち地域コミュニティを活かして育てる古くて新しいスタイルのまちづくりができるかもしれないと期待を持ったところです。しかしながら古くて新しいスタイル「共生のまちづくり」を展開しかたにすることは、なかなか難しいと思います。これこそまさに理事者として町長の腕の見せ所ではないかと考えます。そこで質問いたします。平成25年度あるいは任期4年間を通じて何をどのようにして「共生のまちづくり」を進めるのか。具体的施策若しくは構想をお伺いいたします。

○ 議長 笹木 英二 町長

○ 町長 櫻庭 誠二 お答えいたします。12月の宮下議員からの質問に対して答弁した思いは、しっかり汲み取ってくれているということに関しては、感謝申し上げたいと思っております。私たちのまちは、かつて7,000人、8,000人という人口から今は4000人を切る3800人という町の中で、先ほどの質問にもありましたが、かつては商工業そして農業がこの町の基幹であるという認識が町民の皆さんが極めて強かったわけです。農業後継者が減っていく中で農業者人口も減りました。そして土木建設業の皆様にとっても開発予算、道予算削減で、多くの会社がたたむという厳しい状況にあり、商工業が私たちのまちの基幹ですと言い切れない状況にもなってきております。そういう流れで私たちのまちには5つの福祉施設、2つの矯正施設があります。それをしっかり意識して今後のまちづくりを

していくということが「共生のまちづくり」の基本的な意味合いですし、その中でそれぞれの組織そして法人にしっかりあることに感謝し共に支え合っていくという意味が、私の中に持っている「共生のまちづくり」の意味合いです。これを具体的な施策でどう表すのか。「共生のまちづくり」というのは、一つの言葉でくり一つの行政事業として表せるものではないと感じております。行政側が進める「共生のまちづくり」は色々な事業をやっていくときに職員がそれをしっかり意識しながら事業展開していくことが極めて重要であると感じるところでもあります。今年、月形町新年交礼会においても、多くの皆様に集まっていただきました。このように各市町で行事をやりますと、大概の場において公的機関に関わる人たちが集まってくるのが通例であります。月形町は福祉施設や矯正施設の皆さん、農業関係の皆さんなどジャンルを越えてしっかり集まってくるについては、職員がしっかり説明して参加要請したことも大きな要因になっているところでもあります。ここで皆さんが食べていただいたものは、月形産にこだわった具材で料理したものであります。これについても雪の聖母園、友朋の丘と2つの知的障害者が持っている特産品を料理として提供してくれることが大きな役割を担っていたと思います。この行事に参加された美唄駐屯地の幹部の一人が「月形町は活気、活力のあるまちですね。」ということ述べておりました。それはまさしく主催する職員側もしっかり「共生のまちづくり」の意味合いを理解した上で事業展開したからであると考えております。もう一つ、地産地消の料理コンテストが今年行われましたが、例年と違うところは今年JAつきがたと月形商工会から副賞の参加提供がありました。今回は月形産大豆を提供することで、月形産大豆にこだわった料理ということで、雪の聖母園が当園の納豆を使った料理については、特賞をだしますということで、こだわった賞を提供してくださったところでもあります。これにつきましても企画段階から職員がしっかり意識しながらやった成果であると考えております。3月に入って月形学園の学園長が実は月形学園の医官が定年退職するというので、今後の補充が利かないのが現在の見通しですということ。「できましたら月形町立病院のお医者さんを学園に月に一回もしくは2回健康診断等を含めて派遣してもらえないか。」という要請を受けました。早速、病院長、副院長に相談したところですが、病院長、副院長もちゃんと理解していただき、うちのまちに刑務所があることで共生ということの意味合いを理解していただいた上で、協力しましょうということで快諾いただいたということもありました。これが現在行われている職員を含めてその思いを持ちながら事業展開していると考えております。このことをもって「共生のまちづくり」事業ですとくくれるものではないと感じております。

○ 議長 笹木 英二 宮下裕美子君

○ 議員 宮下裕美子 今、町長から「共生のまちづくり」の具体的な取り組み、現状について答弁があったわけですが、聞いていて私の思い描いていた「共生のまちづくり」と町長の思い描いている「共生のまちづくり」はちょっとニュアンスが違うと感じました。私は「共生のまちづくり」の概念で地域コミュニティを活かして育てると述べていたこと、施設、行政、地域全てがお互いの存在を認め合って感謝した中で共に生き生きと生きていくという言葉から、今まで個別に色々なものがあつたものをどちらかというともっと横のつながりを良くして、新たなコミュニティを作っていくイメージを抱いていたのですが、今の町長の答弁では5つの福祉施設と2つの矯正施設がやはり核になって、それがこの考え方の基本にあるということで、もう少し「共生のまちづくり」が広い意味でみんなが別に施設だからということではなく、町民同士あるいは今までつながりがなかった人たちが「共生」してまちをつくっていくと思っていたので、そこが違っていたと思います。その上であえて次の質問をしますが、先ほど町長が色々な事例を挙げて施策というのは難しい。「共生のまちづくり」の思いを胸に日々、行政を進めていくことが重要であると言いましたが、「共生のまちづくり」と言っている以上、施策として全体が完成されなければいけないし、町民自身は思いを受け取るというのはかなり難しく、何かしらかたちがあつてそれを執行して「共生のまちづくり」に近づいている。これをやったら「共生のまちづくり」ができるというふうに展開していくものであると思うわけです。私自身がこれを施策に落とし込むならどんなふうにしたらう、ここで言うのも申し訳ないですが、午前中に楠議員が示していた中心市街地をテーマに「共生のまちづくり」をするなら、先ほど町長が色々なかたちで言われていた町の中に施設を造った、色々な機能も持っていると言われたわけですが、それは個々の施策で、それらをつなげて中心市街地の設備や機能など様々な観点から結びつけ、地域コミュニティを活かした全体として「共生」のまちを作っていくというビジョンがあつてしかるべきであると思う。そのようにすれば中心市街地の施策がきちんと「共生のまちづくり」に落とし込んで行けるのではないかと考えます。もし地産地消をテーマにするなら今まで何度も「共生のまちづくり」の事例としてパンや納豆のことを言っていました、先ほどの料理コンテストもそうですが、そういうものが個別案件としてあるのですが、それを地産地消という大きなテーマでまとめたとき、それらが関連づけて加工品を作る、あるいは今まで農業者だけだった地産地消の取り組みに商工業者が関わっていく。地産地消でも給食をテーマにして町内にある福祉施設や介護施設、病院、学校給食、保育園で栄養士が献立を連携させることによって地元食材をリレー使用して生産体制を確率する。その中で意思疎通を図りながらみんなが生き生きと暮らせる「共生のまちづくり」ができるのではないかと。つまり仕掛ける側がやはりビジョンを示して展開して行か

なければ、このようなものはまちづくりの姿にはならないと思います。そういう意味で何かしらのかたちをせっかく3期目4年間のスタートに「共生のまちづくり」を掲げたのであれば、4年間でそれなりのかたちが見えるようなところにするまでのビジョンを示していただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○ 議長 笹木 英二 町長

○ 町長 櫻庭 誠二 先ほどの答弁で地域の中であって横につながって、それが「共生」のまちの原点ではないかということでそれはもっともですし、そのことを12月に答弁したと感じております。今回の質問の答えとして言わせていただいたのは、行政がどのように関わっていくのかという事例として新年交礼会、地産地消料理コンテストに関わったところで具体的なこととして述べさせていただきました。「共生のまちづくり」をビジョンということをおっしゃいました。ビジョンが何をもちいてビジョンとするのか、今、質問しているところでビジョンという意味が分からないので、もう一度、分かり易く質問してください。

○ 議長 笹木 英二 宮下裕美子君

○ 議員 宮下裕美子 今、ビジョンという言葉を使いましたが、それは構想ということで、どのようなかたちをもちいてそれをかたちづくるのか。「共生のまちづくり」はおそらく多くの人がどういうものかという姿を描けないでいると思います。「共生」という言葉は昔からあるけれど「共生のまちづくり」という言葉は、本当に耳慣れない言葉で、だからこそそれを先ほど言った横のつながりをもってコミュニティを作っていく。別の言い方にしてそれを分かり易くしていくのですが、それもあくまでも概念のうちからでません。それをもっと具体的なかたちとして、先ほど言った中心市街地をもってこの中で全体構想として中心市街地がある。その中に公共施設等があるなど行政の中では関連づけながら最終的にこのようなかたちで皆さんが日々、生き生きとできるようにするために、こんな事業を行っていきますという事業展開、事業構想がビジョンであると思います。それは特別難しいものではなく行政が普段やっている行政が基本的に何かをやるうとしたときに、構想を練ってかたちをつくって、それを住民に提示するわけですから、そのようなやり方でいいと思いますし、先ほどの料理コンテストや交礼会は本当に小さい事業であるけれど、それを「共生のまちづくり」までにつなげる、大きな概念までつなげる何かしらの構想がないとそれぞれが単発の小さな事業で終わってしまい、では一体何のためにこれを行っているのだろうということが、住民みんなが思い描いて初めてそれがまちづくりになると思います。ですからそれをつなげるアイデアや構想がビジョンであると理解していますので、実際的にどう関わればいいのか、どんなふうに行き行かぬのか、そういうことを示していただきたいと思います。

○ 議長 笹木 英二 町長

○ 町長 櫻庭 誠二 例えば中心市街地、午前中の楠議員の提案に対するところでの再提案をいただいたところでもありますが、これは中心市街地における福祉を含めた総合的なかたちでのまちづくりの構想につながっていくと思っております。その基本的考えの中に「共生」共に生きていくという思いがあるかどうかということであると考えているところであります。場所等を限定するものではないと思っております。ですから12月にも述べさせていただきましたが、知的障害者の作るパンが美唄駐屯地の食堂で使われていることも「共生」です。それらは私たちのまちにおける新年交礼会に司令官が参加してくれて、月形刑務所所長がかつてなかった歓送迎会をうちのまちが主体としてやって皆さんに来てもらった中でできたことが、月形刑務所で納豆を利用してもらうかたちだったのです。それぞれが積み重なっていくその中で大きな「共生のまちづくり」があると考えているところであります。そのことをしっかり意識付けしながら職員が事業展開していくかどうかということが重要であるし、行政側として考えるところはそういうことです。

○ 議長 笹木 英二 宮下裕美子君

○ 議員 宮下裕美子 水掛け論になってしまいそうなのでそれ以上のことは聞きませんが、「共生のまちづくり」が行政にとってどんな役割を果たすのかと言うことが質問の主旨ですが、「共生のまちづくり」はその要素の施設や行政や町民みんなが最終的なビジョン、どのようなかたちでそれらが完成されるのか、出来上がった姿を共有できなければ「共生のまちづくり」はできません。町長はそれを職員は頭に描いていると言っていますが、町民は果たして描いているのだろうか。町民がきちんと描けるように示していくのが施策でありビジョンであるので、そこを追い越して職員だけがそれを理解してうまく進めていますと言っても、それは所詮、行政の独りよがりになってしまうのではないかと思います。やはり「共生」です。共に生きる、共に助け合う、共に感じるとすれば、やっぱりみんなが共有できなければいけないと思います。ですからやはりそこは一つ分かり易い事業を打ち出して、これを進めることがまさしく「共生のまちづくり」につながるというものを示していただきたい。それが今までの話からできていないとしても、少なくとも4年間の任期でかたちを見せるためには、早急に最初のステップ構想の部分は示されないと4年間でかたちが見えてくるようにならないと思います。午前中の答弁で中心市街地の中に振興計画のアンケートのことがあって、それらを基に考えていくということが少しされていたと思いますが、アンケート実施が25年、26年とすると、その後構想ができて計画がきちんとできたとしても、町長の任期は終わりに近いです。そうすると構想としてあるけれどそれとは別にせつかく「共生のまちづくり」を所信表明でやった思いをきちんとかたちにし

ながら、4年間で何かしらのかたちにするという強い思いで進めていただきたいと思います。ですが、そこをお願いします。

○ 議長 笹木 英二 町長

○ 町長 櫻庭 誠二 「共生のまちづくり」が任期の4年間で完成できるものではないと思いますし、その時々で社会事情でも変わってくるものであると思っています。先ほど町民がこのことを知らないと言っていました。これも事例として説明したと思いますが、知来乙小学校跡地に岩見沢の聖十字幼稚園がわくわくの森ということで活動しております。それについては、地域のお年寄りの皆さんがしっかり関わって知来乙の自然の魅力を活用しながらお互いに生き合っている。これには行政は関わっていませんが、地域の人たちがしっかりやってくれているということです。5月、6月には補正予算で上げる予定になっているのですが、道の基金事業で緊急雇用創出促進事業が立ち上がりました。その中で雪の聖母園と地元農家の方が、地元農産物漬物等々の加工販売をしているNPO法人「サトニクラス」と月形町で展開しているコミュニティワーク研究実践センター月形事業所わくわくを利用されている2人、3人雇用のうち2人をこの事業所利用者の皆さんに参加してもらってかたちで展開しているところでもあります。これにつきましては、100% 国、道の補助事業ですから、私たちのまちは申請手続きだけをするところですが、このようなことも含めて今、町の中でしっかりそのことが行われていることも私たちのまちの福祉施設が元々、地元にあって理解されてもう意識共有されている活動の上に今があると思っています。 「共生のまちづくり」を4年間であると考えておりませんし、これからはずっと小さな自治体で考えていくときにまちづくりの基本になっていきます。宮下議員の言われる構想の部分でもっと具体的なものがありましたら、今後、考えて行きたいと思っています。

○ 議長 笹木 英二 3回目ですが、今、お二人のやり取りを聞いていましたが、他議員、私にとってもちょっと難しい。町長が考えている「共生のまちづくり」ももっともなことであるし、宮下議員が質問した「共生のまちづくり」ももっともなことであると思いますが、一致しているところも少しあったと思います。今後、町としても「共生のまちづくり」については、宮下議員の意見も取り入れながら町民のためにいいまちづくりをしていただきたいと思っています。

○ 議長 笹木 英二 宮下裕美子君

○ 議員 宮下裕美子 今、町長が色々、言われて勿論、様々な取り組みがされているので、十分、応援したいと思っていますので、「共生のまちづくり」の観点からそれらの事業を紹介していけば「共生のまちづくり」になっていきますから、やはり広報の仕方でも変わ

ってくると思うのです。だから「共生のまちづくり」をやるという熱い思いがあれば、どのような事業でもそこに絡めながらPR、報告して、町民と意識共有ができると思いますので、そのようなかたちの中で「共生のまちづくり」がきちんとみんなが理解できるようなかたちで進めていただきたい。それと同時に今まで町長が言われたのは全て過去にスタートしたものや現在まで行われている事業ですが「共生のまちづくり」を掲げた以上、未来に向かってのビジョンがないとやって行けないと思いますので、その部分でこれからのことをぜひ語っていただきたいと思います。